

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号  
**実用新案登録第3211647号**  
**(U3211647)**

(45) 発行日 平成29年7月27日 (2017.7.27)

(24) 登録日 平成29年7月5日 (2017.7.5)

(51) Int.Cl. F 1  
**A 4 5 D 20/10 (2006.01)** A 4 5 D 20/10 B  
**D 0 6 F 69/00 (2006.01)** D 0 6 F 69/00 Z

評価書の請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 実願2017-2157 (U2017-2157)  
 (22) 出願日 平成29年5月16日 (2017.5.16)

(73) 実用新案権者 517170878  
 秋本 たみ子  
 東京都西東京市東伏見3-6-22  
 (74) 代理人 100103872  
 弁理士 柏川 敏夫  
 (74) 代理人 100088856  
 弁理士 石橋 佳之夫  
 (74) 代理人 100149456  
 弁理士 清水 喜幹  
 (74) 代理人 100194238  
 弁理士 狩生 咲  
 (72) 考案者 秋本 たみ子  
 東京都西東京市東伏見3-6-22

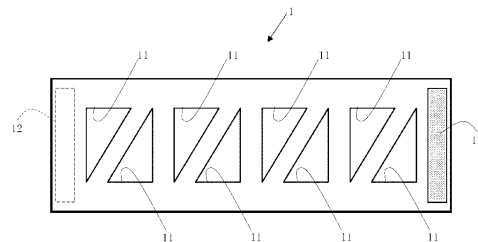
(54) 【考案の名称】 ドライヤーカバー

(57) 【要約】

【課題】 ドライヤーの吹き出し口部分に取り付けるだけで、簡単にドライヤーとして利用することができ、また携帯性にも優れたドライヤーカバーを提供する。

【解決手段】 ドライヤーカバー1は、シリコンなどの軟性材料に作られた平板状をしており、その中間部には熱風の逃げ口となる穴11が形成されている。持ち運ぶ際には、板状のまま、又は折り畳んだり、丸めたりして運ぶことができる。使用時には、ドライヤーカバー1をドライヤーの吹き出し口に巻き付けて、その先端部に衣類などを当ててしわをのばすアイロンのように使うことができる。

【選択図】 図1



## 【実用新案登録請求の範囲】

## 【請求項 1】

軟性材料により作られた平板状に形成されており、ドライヤーの吹き出し口に巻き付け可能に構成されている、

ことを特徴とするドライヤーカバー。

## 【請求項 2】

上記平板状の中央部には、上記ドライヤーの熱風が抜けるための穴が形成されている、請求項 1 記載のドライヤーカバー。

## 【請求項 3】

上記板状の両端部には、係止部材が取付られている、

請求項 1 又は 2 記載のドライヤーカバー。

10

## 【請求項 4】

上記ドライヤー取付状態で、衣服等との当接面には布が取り付けられるように構成されている、

請求項 1 ~ 3 のいずれかに記載のドライヤーカバー。

## 【請求項 5】

上記布と上記ドライヤーカバーをドライヤーに取り付けるための輪ゴムをさらに有している、

請求項 4 記載のドライヤーカバー。

20

## 【考案の詳細な説明】

## 【技術分野】

## 【0001】

本考案は、ドライヤーに取り受けるだけで、きれいに衣服を乾燥させ、しわを伸ばすためのアイロンとして利用するのに好適なドライヤーカバーに関する。

## 【背景技術】

## 【0002】

従来から、衣服のしわを伸ばすために様々なアイロンが提案されている。スチーム付きのアイロンや、大型のアイロン、また携帯性に優れ、細やかな整形ができる小型のアイロンなどである。これらのアイロンは、多くは電気アイロンが主流で、電源に接続することで加熱し、加熱した鉄製の鍍部分を衣類に押し当てることで、その熱で衣服を乾燥させ、またしわをのばして整形するようになっている。

30

一方で、旅先や外出先でアイロンを掛けたい場合などもある。このような場合には、小型のアイロンを持ち歩いて、その場で掛けるようなことが行われている。

このような場合に、簡単に使えるように本願考案者は先に「ドライヤー口アイロンカバー」を提案している。ドライヤー口アイロンカバーは、化学繊維に耐熱加工を施し、多種のドライヤーの吹き出し口に適用するように楕円形又は丸円に施工し、そこに 5 mm 間隔に直径 2 mm の丸穴をあけ、その周りに幅 3 cm 程の伸縮性シリコンテープを施す事で吹き出し口に取り付けたものである（先行特許文献 1）。

40

## 【先行技術文献】

## 【特許文献】

## 【0003】

【特許文献 1】実用新案登録 3 1 9 3 7 4 6 号公報

## 【考案の概要】

## 【考案が解決しようとする課題】

## 【0004】

しかし、従来の電気アイロンは、小型とは言ってもこれを持ち運ぶことが大変面倒であった。

また、簡単にアイロンを掛けたい場合でも、鍍部分が過熱するまで待っていなければなら

50

ず、使うことも面倒であった。

さらに、上述の先行文献記載の考案をより改良して、携帯性に優れ、また簡単に利用できるものが望まれていた。

【0005】

本考案は上記課題を解決するためになされたものであって、ドライヤーの吹き出し口部分に取り付けるだけで、簡単にドライヤーとして利用することができ、また携帯性にも優れたドライヤーカバーを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本考案の一の観点にかかるドライヤーカバーは、軟性材料により作られた平板状に形成されており、ドライヤーの吹き出し口に巻き付け可能に構成されていることを特徴とする。

10

【0007】

上記平板状の中央部には、上記ドライヤーの熱風が抜けるための穴が形成されていてもよい。

【0008】

上記板状の両端部には、係止部材が取付られていてもよい。

【0009】

上記ドライヤー取付状態で、衣服等との当接面には布が取り付けられるように構成されていてもよい。

【0010】

上記布と上記ドライヤーカバーをドライヤーに取り付けるための輪ゴムをさらに有していてもよい。

20

【考案の効果】

【0011】

本考案よれば、ドライヤーの吹き出し口部分に取り付けるだけで、簡単にドライヤーとして利用することができ、また携帯性にも優れたドライヤーカバーを提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【0012】

【図1】本実施形態にかかるドライヤーカバーを展開した状態を示した正面図。

30

【図2】本実施形態にかかるドライヤーカバーを組み立てた状態を示した斜視図。

【図3】本実施形態にかかるドライヤーカバーの使用状態の一例を示した斜視図。

【考案を実施するための形態】

【0013】

本考案かかる実施形態について図面を参照して説明する、

図1に実施形態にかかるドライヤーカバーの一例を示す。図1において、ドライヤーカバー1は、正面長方形の薄板状に形成されている。

このドライヤーカバー1は、シリコンなどの樹脂により柔軟性を有する材料により構成されている。

【0014】

40

ドライヤーカバー1の両端部の表面及び裏面側には、係止部材としての面テープ12が取り付けられている。この面テープ12により、図2に示すようにドライヤーカバー1を円筒状に組み立てて、この状態でその両端を止めることができるようになっている。

なお、この例では、係止部材として、面テープ12により固定する例について説明したが、一端部に凸部、他端部に凹部を設け、これを係合させて物理的に固定してもよい。

【0015】

ドライヤーカバー1の中央部には図示しないドライヤーの熱風を逃がすための穴11が形成されている。本実施形態では、穴11は三角形に形成されており、これが向かい合う形でドライヤーカバー1の全面にわたって形成されている。

【0016】

50

次に、このドライヤーカバー 1 の使い方について図面を参照して説明する。

まず、ドライヤーカバー 1 を持ち運ぶ場合には、図 1 に示すようにこれを広げた状態で鞆などに中に入れて持ち運ぶ。もちろん、これを折り畳んだり、丸めたりして小さくコンパクトして持ち運んでもよい。

【 0 0 1 7 】

そして、これをドライヤーに取り付けて使用する場合には、図 2 に示すようにドライヤーカバー 1 を丸めて両端の面テープ 1 2 で固定して、円筒状にする。

この状態で、図 3 に示すようにドライヤーの熱風の吹き出し口に取り付ける。取り付ける場合は、ドライヤーカバー 1 を丸めながら吹き出し口に取り付けてもよいし、またドライヤーカバー 1 を円筒状に成形してから、その一端開口部を広げて取り付けてもよい。

10

【 0 0 1 8 】

また、取り付ける場合場合、図 3 に示すように、ドライヤーの吹き出し口に布 2 を被せて、それを環状のゴム 3 で止めるようにしてもよい。これにより、ドライヤーの熱風が均一になり、温度ムラなどを防止できる。

【 0 0 1 9 】

図 3 の状態でドライヤーのスイッチを入れると、吹き出し口から熱布が吹き出し、それがドライヤーカバー 1 から吹き出すようになる。

これを衣服に押し当てることで、ドライヤーの熱布により、衣服のしわを伸ばすことができる。

また、衣服に当たった熱風は、ドライヤーカバー 1 の穴 1 1 から抜けることで、熱風がドライヤーに逆流することで、ドライヤーが故障することを防止できる。

20

【 0 0 2 0 】

ドライヤーカバー 1 はシリコンなどの軟性樹脂により作られているため、これを直接衣服に当てても衣服を傷めてしまうことがない。

またドライヤーの吹き出し口にドライヤーカバー 1 を巻き付けて取り付けるようにしたことから、ドライヤーの吹き出し口の径の大小や、形状が異なっても、ドライヤーカバー 1 を巻き付ければよいことから、これらにかかわらず使用することができる。

【 0 0 2 1 】

図 3 に示すように布を当てることで、アイロンを行う際の当て布と同じ効果を得ることもできるし、またドライヤーの熱も均一にかけることができる。

30

ドライヤーカバー 1 を持ち運ぶ場合は、図 1 のような板状にしたり、またこれを丸めたり、折り曲げたりして、コンパクトな状態にすることができるので、携帯性に優れ、鞆などにいつも入れておいても全く問題なく持ち運ぶことができる。

そして、ドライヤーをアイロン代わりに使うことができるため、取り出してすぐに使うことができるし、また衣服を吊り下げた状態でも簡単に使うことができる。

【 0 0 2 2 】

なお、上述の穴 1 2 の形状などは任意であり、どのような形状であってもよい。

また、ドライヤーカバー 1 の材料は、軟性の材料であればよく、任意である

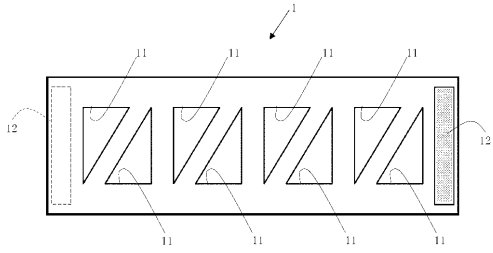
【 符号の説明 】

【 0 0 2 3 】

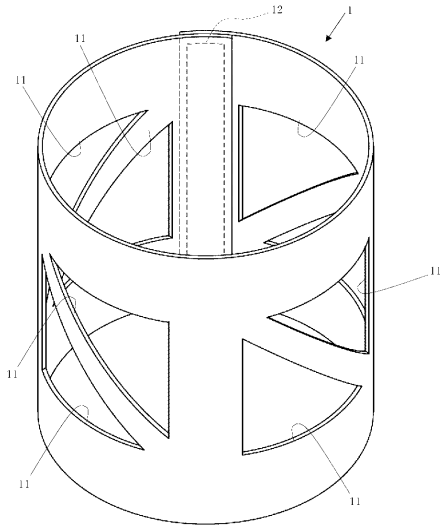
- 1       ドライヤーカバー
- 2       布
- 3       ゴム
- 1 1     穴
- 1 2     面テープ

40

【 図 1 】



【 図 2 】



【 図 3 】

